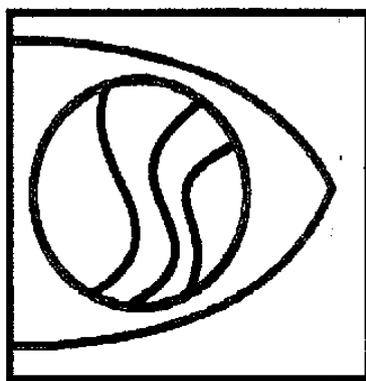


# 全国勤労者スキー協議会 競技規則



全国勤労者スキー協議会 競技部  
(2025年11月)

## 目次

### 1 組織

- 1-1 大会会長
- 1-2 組織運営委員長
- 1-3 技術代表 (TD)
- 1-4 ジュリーメンバー
- 1-5 主審
- 1-6 競技委員長
- 1-7 コース係長
- 1-8 スタート審判
- 1-9 ゴール審判
- 1-10 旗門審判係長
- 1-11 旗門審判員 (旗門員)
- 1-12 時計計算係長
- 1-13 会場係長
- 1-14 組織委員会
- 1-15 コースセッター
- 1-16 前走

### 2 大会の準備とリザルトの公表

- 2-1 プログラム
- 2-2 案内
- 2-3 エントリー
- 2-4 チームキャプテンミーティング
- 2-5 リザルトの公表

### 3 競技

- 3-1 競技の性格
- 3-2 用具の制限
- 3-3 コースの設定
- 3-4 スタート順の決定
- 3-5 インспекションの規則
- 3-6 滑走時の規則

- 3-7 再レース
- 3-8 抗議
- 3-9 性別の審査
- 4 テクニカルデータ
  - 4-1 用語の定義
  - 4-2 標高差（コースの標高差）
  - 4-3 コースの長さ
  - 4-4 旗門
  - 4-5 旗門の幅（旗門線の長さ）と旗門インターバル（男女共通）
  - 4-6 旗門の数
- 5 アルペン種目のテクニカルデータ表
- 6 シングルポール規則（S L・G S）

## 1 組織（競技役員の任務）

### 1-1 大会会長

- ・大会の責任者として競技会組織全般を監督する。

### 1-2 組織運営委員長

- ・大会の企画立案、広報、エントリー受付、宿や食事手配、諸委員の任務配置と大会運営、リザルトの公表、ポイントの集計など、競技大会の準備から実施に至る運営全般の責任者として、統括する。

### 1-3 技術代表（TD）； Technical Director

- ・ジュリーメンバーの代表を務める。
- ・本規則および付則・指示（以後、ルール）に沿い準備・実施されていることを、技術的側面から確認する。
- ・TDとしての任務の範囲に限定し、ジュリーメンバーへアドバイスができる。

### 1-4 ジュリーメンバー

- ・大会会長、組織運営委員長、TD、競技委員長、主審で構成され、競技エリアにおける専門的な事柄や異議申し立てに関して協議を行い、決定する。
- ・スタート間隔はジュリー会議で決定する。

#### 1-4-1 ジュリーメンバー選出の条件

- ・大会会長、組織運営委員長をのぞくジュリーメンバー、すなわち TD、主審、競技委員長がその任務を遂行するときには、ルールやポールセットなど競技の専門分野に習熟していなければならない。
- ・よって、これらの役員は、本団体の「コースセッター資格」を持ち、本規則や本団体の「コースセッターテキスト」に習熟していることが求められる。また、2年に1回以上のジュリーメンバーの経験を持つことが望ましい。

### 1-5 主審

- ・設定コースの適格性と判定に関する最終決定者である。
- ・コースセット終了後に速やかにジュリーメンバーと共にインペクションを行い、競技開始可否を決定する。

- ・ ジュリーメンバーを伴わず単独でインペクションを行った場合は、主審の決定が最終決定となる。

- ・ ルール違反や不正旗門通過の報告内容を判定し、1本目終了および2本目終了後、速やかに公式掲示する。

#### 1-6 競技委員長

- ・ 競技の準備、本番中の競技進行を監督し、運営側と選手側の窓口を行う。
- ・ コース係長、スタート審判、ゴール審判、旗門審判係長、時計計算係長、会場係長を監督する。
- ・ キャプテン会議を開催する。

#### 1-7 コース係長

- ・ ジュリーメンバーと協議のうえ整備方法を決定し、整備係を統括してコース整備を行う。

#### 1-7 コース係

- ・ コース係長の指示のもと、コースの整備を行う。
- ・ 旗門審判員（旗門員）が作成したジャッジペーパーを回収し、旗門審判係長へ提出する。

#### 1-8 スタート審判

- ・ 試合の間、常にスタート付近におり、状況を監督する。
- ・ スタートの体制およびスタートに関するルールに沿い準備・実施されていることを確認する。
- ・ 遅延スタート・不正スタートなどスタート時の違反を判断する。
- ・ 棄権をした選手、遅延・不正スタートした選手、その他違反を犯した選手の名前を主審に報告する。
- ・ いつでもゴール審判と連絡が取れるようにしなければならない。

#### 1-9 ゴール審判

- ・ 試合の間、常にゴール付近におり、状況を監督する。
- ・ ゴール体制およびゴールエリアにおいて、ルールが順守されていることを確認する。
- ・ ゴールコントローラー、タイミングシステム、ゴールエリアの観客コントロールを監督する。

- ・いつでもスタート審判と連絡が取れるようにしなければならない。

#### 1-10 旗門審判係長

- ・旗門審判員（旗門員）の業務を組織し監督する。各旗門員に担当旗門を指定し配置する。
- ・旗門員にジャッジペーパー、鉛筆、スタートリストなどを配布する。
- ・コース整備の手伝いができるように準備する。
- ・旗門のマーキング、ナンバー付けを規定時間内に行う。
- ・コース係が回収したジャッジペーパーをジュリーメンバー（主審が望ましい）へ提出する。

#### 1-11 旗門審判員（旗門員）

- ・責任は、自分が受け持つ旗門に最初の選手が接近する時から始まり、最後の選手が通過したときに終了する。
- ・選手の旗門通過を観察し、通過・不通過を確認する。
- ・スタートリストに正しい通過をした選手にレ点を、不通過の選手はDを記入する。
- ・不通過が確認された場合は、失格票（ジャッジペーパー）に当該選手のゼッケンナンバー、不通過のあった旗門番号、不通過の状態のスケッチを記入する。
- ・旗門のフラッグが外れたときの付け直し、旗門損傷時のコース係とスタート係への緊急連絡など旗門の管理を行う。
- ・選手からの質問に対しては、はっきりとした確固たる声で返答・指示する。
- ・旗門通過と認められる場合はGO（行け）、失格と認められる場合はBACK（戻れ）と指示をする。
- ・判定は明確で偏っていないものでなければならない。「疑わしきは罰せず」を基本とする。

#### 1-12 時計計算係長

- ・時計・計算を含め、スタート審判およびゴール審判との調整を行う。
- ・出走前後の選手の予想タイムや滑走中選手の転倒などを考慮し、スタート間隔を調整する。
- ・下記の役員は時計計算係長下におかれる。

（出発合図員・出発記録員・時計主任・計算主任）

#### 1-13 会場係長

- ・会場係長は、観客がコースに入れないように閉鎖されているか確認する。
- ・観客がコースを横切らなければならないようなコース設定の場合は別にスタッフを配置し安全を確保する。
- ・観客が移動できるようにバリアの後ろに十分なスペースを確保するよう注意を払う。

#### 1-14 組織委員会

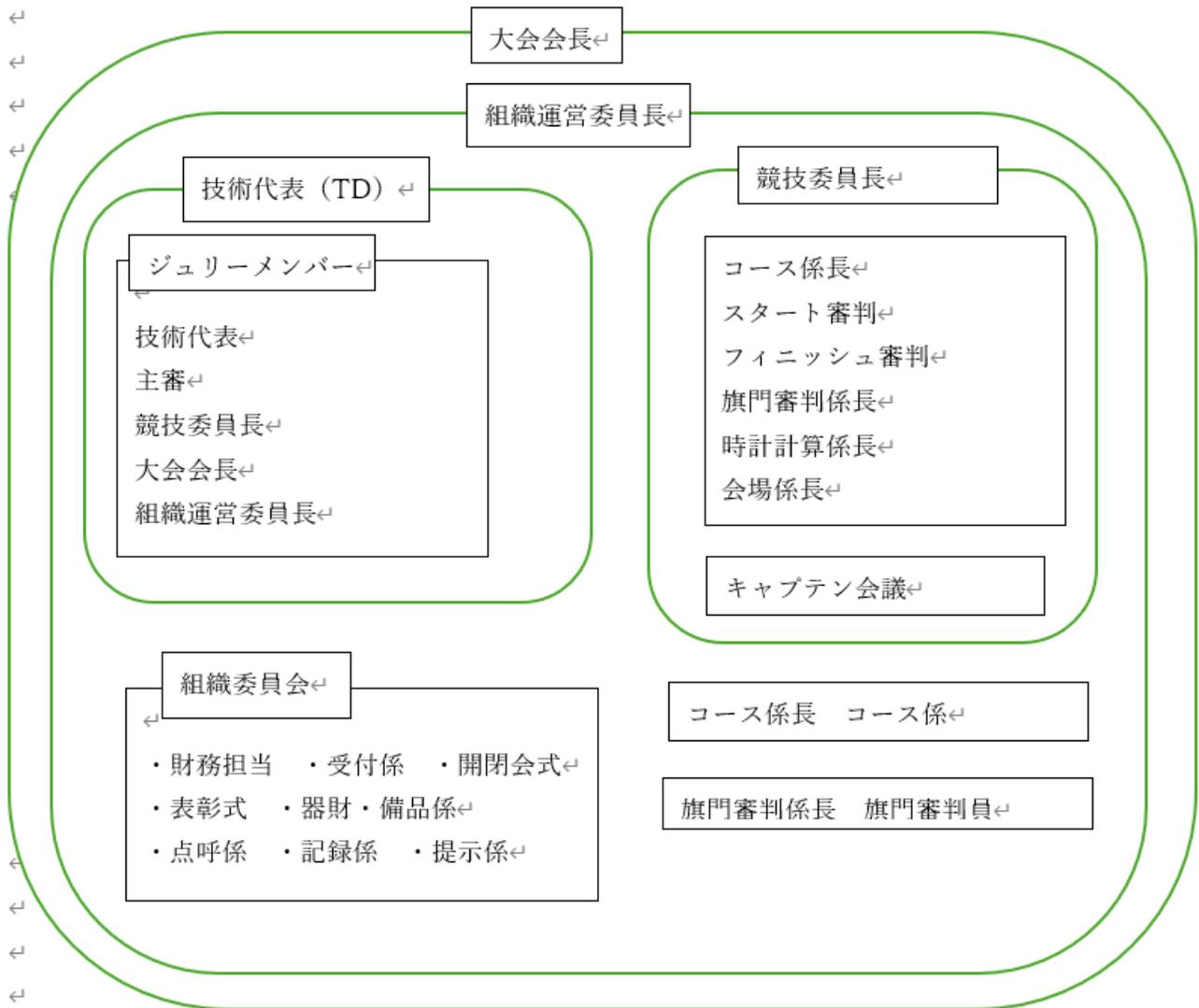
- ・以下の役員を配下におき、庶務的な業務全般を行う。  
(財務担当・受付係・開閉会式・表彰式・器財・備品係・点呼係・記録係・提示係)

#### 1-15 コースセッター

- ・本団体が主催する全ての競技会およびポイントレースにおいて、コースセッターは、ジュリーメンバーが任命する。
- ・全ての競技会について、ジュリーメンバーがコースセッターの業務を監督する。
- ・コースの安全対策に関し、変更を加えることを勧告できる。
- ・ジュリーメンバー及びコースセッターもコースの最終仕上げを確認する。
- ・担当する試合において、ルールに沿い旗門をセットする。
- ・セットは、選手の安全を優先しかつタイム差が大きくなりすぎないように注意をしなければならない。

#### 1-16 前走

- ・スタート前にコースを実走し、コースの適性を主審に報告する。



## 2 大会の準備とリザルトの公表

### 2-1 プログラム

- ・全国スキー協が主催するレースや全国スキー協が公認するポイントレースは次の事項を含んだプログラム（大会案内）を公表しなければならない。
- ・競技名称、主催者、主管者、主要役員名、競技日程、開催地、競技会場に関する情報、クラスカテゴリーの内容、チームキャプテンミーティングの開始時刻と会場、競技の開始時刻、表彰式の時刻と場所、ローカルルール、エントリーの方法と締切日、エントリー用の連絡先（電話番号・FAX 番号・メールアドレス）、現地本部と連絡先、推奨している宿先。
- ・競技者の性別について疑問や異議申し立てが生じた場合、ジュリー会議は競技者の性別判断に必要な手段を講じる。

### 2-2 案内

- ・組織委員会は大会案内を発表しなければならない。

## 2-3 エントリー

- ・参加希望者は、組織委員会が指定する締切日までにエントリーを行わなければならない。

## 2-4 チームキャプテンミーティング

- ・チームキャプテンミーティングの開催スケジュールと会場は、プログラムに掲載されなければならない。
- ・その他すべてのミーティングに関する案内は、初回ミーティング時にチームキャプテンに連絡しなければならない。
- ・緊急のミーティングは、余裕をもって連絡しなければならない。

## 2-5 リザルトの公表

- ・速報および公式リザルトは、現場で掲示すると共に、速やかにスキー協（全国）へ内容を報告する。
- ・スキー協（全国）は、リザルトを集計し各種情報をホームページに掲載する。

# 3 競技

## 3-1 競技の性格

- ・本規則で定義する競技とは、定められたルールに従い、スポーツマンとして正しく行動する選手が、スタートから正しくゴールに至るタイムを競うものである。

## 3-2 用具の制限

### 3-2-1 ヘルメット

- ・選手または前走者がコースに入る時は、クラッシュヘルメットを装着しなくてはならない。
- ・SL 競技に限り、耳当ての部分に限りソフトな素材であるヘルメットの利用を認める。
- ・SL 競技で用いるチンガードは、他の競技においては危険防止の観点からその利用を認めない。

### 3-2-2 ゼッケン

- ・選手または前走者がコースに入る場合は、常にゼッケンを掲示しなくてはならない。

### 3-2-3 スキー

- ・本規則では、大会で用いるスキーにレギュレーションを定めない。

### 3-2-4 ストック

- ・SL 競技で用いるパンチガードは、他の競技においては危険防止の観点からその利用を認めない。

### 3-2-5 ワックス

- ・環境への負荷および人体への影響が懸念されることから、大会中のフッ素系ワックスの使用を禁止する。(フッ素系ワックス使用の検査に関しては今後の課題)

## 3-3 コースの設定

### 3-3-1 旗門のセット

- ・定められたルールに沿い、旗門をセットする。

### 3-3-2 旗門のマーキング

- ・旗門ポールの位置を全競技中見えるように残るわかりやすい染料でマークする。

### 3-3-3 ラインのマーキング

- ・天候、コースの地形、視界不良などの場合はラインおよび地形の変化部分に染料でマークするのが望ましい。

### 3-3-4 旗門番号の表記 (ナンバリング)

- ・設置されたポールに旗門番号を表記しなければならない。
- ・ナンバリングは、シングルポール規則を適用しない限り、アウトポール側に施すものとする。

### 3-3-5 スタート

- ・スタートバーを設置し、選手の膝下部分がスタートラインを横切った正確なタイミングを測定する。

### 3-3-6 ゴール

- ・ゴールエリアは、近づいてくる選手からはっきり見えるよう設置する。
- ・ゴール手前から選手が地形やコースに合ったレーシングラインを通過してゴールの中央にゴールできるようにセットする。
- ・ゴールラインは「ゴール」と書かれたバナーでつなぐか、または2本のポールまたはバナーでマークする。

### 3-3-7 計時システム

- ・コースには計時システムを設置し、タイムを計測することを基本とする。
- ・ただし設置が困難な場合は、スタートとゴールの間でタイミングを交信しながらストップウォッチで計測する。

### 3-4 スタート順の決定

#### 3-4-1 1本目のスタート

- ・選手のスタート順は、選手のポイントにより決定される。
- ・各グループの選手はポイント順（小さいものが先）にスタートする。
- ・ポイントが1000点を有するものまたはポイントのない選手のスタートは申込順とする。

#### 3-4-2 2本目のスタート

- ・2本目のスタート順は競技役員会で決定される。
- ・フィリップ15・フィリップ5等の方法があり、天候・視界などで当日の決定もある。
- ・複数の選手が同タイムの場合、ゼッケンナンバーの最も大きい選手が早かったと仮定してスタートする。
- ・2本目のスタートリストは適切な時刻までに役員に配布するようにする。
- ・2本目のスタートリストは見やすい場所（スタート・ゴールエリア）に掲示する。

### 3-5 インспекションの規則

- ・発表された時間内にインспекションを行われなければならない。
- ・選手および前走者は、ルールに定められた用具を着け、コースに入らなければならない。
- ・コースに沿って常に明確なスライドを伴うターン（プルークボーゲンまたは横滑りなど）でゆっくり滑り降り、コースの下見を行う。

### 3-6 滑走時の規則

#### 3-6-1 スタートの規則

- ・選手は、スタート時間内にスタートしなければならない。
- ・選手は、係員の指示でスタートライン前の雪中または指示された位置にストックを付け、ストックの助けのみでスタートし他の援助を用いてはならない。1度ついたストックを離してスタートした場合は失格となる。(スノーボードには適用しない)
- ・スタートの合図は10秒前に予鈴が鳴り、その5秒後に『プッ・プッ・ピッ・ピッ・ピッ・・・ポー』でスタート時刻となる。ただし、連続した電子音が鳴動している5秒間、さらに連続音が終了した後3秒間(合計8秒)以内ならいつスタートしてもよい。電子音を使わない場合のスタートの合図についてはその都度明記して運用する。
- ・時間どおりスタートできない場合は理由が認められれば、スタート役員の指示に従いスタートできる。
- ・スタートを有利にするまたは不利にする可能性のある役員の付き添いの者がスタートする選手の後ろに立ってはならない。

#### 3-6-2 旗門通過の条件

- ・正しい通過とは、両スキーの先端と両足のブーツが、以下に定める事項を満足し、通過したことをいう。
- ・旗門線を通じた。
- ・シングルポール規則に定める方法で通過した。
- ・旗門不通過することなく1本のスキーを失った場合、残りのスキーの先端と両足が旗門線を通じたして滑走すればよい。

#### 3-6-3 シングルポール(ゲート)規則

- ・シングルポール規則に定めるコースは、アウトポール(ゲート)を省略してよい。ただし第一旗門および最終旗門、スルーゲート、ヘアピン、ストレートは例外である。
- ・シングルポール・ゲートでは、選手の両足とスキーの両先端が自然な競技ラインと交差したのち、ターニングポール(ゲート)をターンしたときが、正しい旗門の通過とする。
- ・選手が不通過となった旗門を、登り、戻り、通過しなかったターニングポール(ゲート)を回り、通過をやり直すことができる。

#### 3-6-4 コース中の規則

- ・選手はコースの全旗門とゴールラインを正確に通過しなかった場合は、失格となる。
- ・両足スキーが外れた場合はその時点で失格となる。
- ・選手が旗門不通過となった場合、その先の旗門を通過する権利がなくなるが、当該の旗門まで戻って正しく通過すればよい。
- ・選手は、旗門員に旗門を正しく通過したか質問ができる。
- ・後から来る選手にコースを譲らなかった場合は失格となることがある。
- ・役員の不手際や観衆その他の妨害を受けた場合は直ちに再レースを申し込むことができる。
- ・再レースを希望する場合にはコースを外れゴールまでコースの端を滑り、ゴールを切ってはならない。

### 3-6-5 ゴールの規則

- ・両足のスキーか片方のスキーがなくとも、両足がゴールラインを横切った時にゴールが認められる。
- ・電気時計の場合は身体の一部がゴールを横切った時にゴールタイムが計測されるが、その後両足でゴールラインを切らなければ有効にならない。

### 3-7 再レース

#### 3-7-1 再レースの必要条件

- ・レース中に妨害を受けた選手は、妨害発生後直ちにジュリーメンバーに再レースの申しでなければならない。この申し出は妨害を受けた選手のチームキャプテンが行うこともできる。
- ・再レースを希望する選手はゴールまでコースの端を滑り、ゴールを切ってはならない。
- ・計測機器等の不具合により、選手へ再レースを宣告する場合がある。

#### 3-7-2 妨害の根拠

- ・役員、観客、動物、その他の障害物によるコースの遮断。
- ・転倒した他選手がすぐにコースをあけなかった場合のコースの遮断。
- ・前の選手が落としたスキーポールやスキー等のコースの遮断。
- ・その他ジュリーメンバーが認めた場合のコースの遮断。

#### 3-7-3 再レースの正当性

- ・主審やほかのジュリーメンバーが適切な役員に直ちに質問ができない場合や再レースの正当性を判断できない場合は、競技の遅延を避けるため、暫定的な再レースを許可することができる。この再レースはジュリーの確証が与えられた場合のみ有効となる。
- ・選手に再レースを認めることになる前に、選手がすでに失格となっていた場合は無効となる。
- ・暫定的または確定的に認められた再レースのタイムが妨害を受けた時のタイムより遅くても再レースのタイムが有効である。

#### 3-7-4 再レースのスタート時刻

- ・選手はスタート審判に再レースを報告した後、その指示に従ってスタートする。

#### 3-7-5 失格

- ・ルールやジュリーメンバーの決定に違反した場合。
- ・ジュリーメンバーや競技役員に対して不穏当な態度をとった場合。
- ・不正な申告でレースに出場した場合。
- ・他人の安全や所有物を危険にさらした場合。
- ・再レースを要請しそれが実証できないことが後で判明した場合。

#### 3-8 抗議

##### 3-8-1 抗議の対象

- ・競技中の他選手または役員の不正。
- ・自身の失格。

##### 3-8-2 提出期限

- ・最後の選手のゴール通過後15分以内。
- ・特に失格に関しては、その掲示後15分以内。

##### 3-8-3 抗議の方法

- ・抗議は、物的証拠に基づいた内容に限定する。
- ・抗議は基本書面で提出する。ただし口頭でも可能である。
- ・抗議の提出はジュリーメンバーとする。
- ・ジュリーメンバーは、場所と時間を決め抗議の処理をするために協議を行う。その内容

は正式掲示の際に公表される

### 3-9 性別の審査

・競技者の性別について疑義が生じた場合、ジュリーメンバーは当該競技者の性別判断に必要な手段を講じ、対応を協議する。

## 4 テクニカルデータ (DH は省略します)

### 4-1 用語の定義

#### ・可倒式ポール

最小20mm～最大30mmで、セット時雪面から1.8m以上出る長さで破片にならない材質で作られ、内蔵されたスプリングにより選手に衝突して倒れた後も自動的に起き上がる構造となったもの。

#### ・固定式ポール

可倒式ポールと同様で、自動的に起き上がる構造を略したもの。アウトポール（ゲート）やゴールなどに用いられる。

#### ・フラッグ

GS や SG などの2本のポールで旗門を作るときに用いられ、サイズは、横75cm×縦50cmとし、下端が雪面から1m以上の高さに取り付けられる。

#### ・旗門と旗門線

ターニング側とアウト側で構成され、それぞれを結ぶ線（旗門線）を選手が通過することで、旗門通過の是非が判断される。

#### ・ターニングポール（ゲート）

選手が旗門を通過する際に最も近づく側のポール（ゲート）のこと。自然なラインの始点・終点をなすもの。

#### ・アウトポール（ゲート）

ターニングポールとは逆側にあるポール（ゲート）のこと。

#### ・自然な競技ライン

前後する旗門のターニングポール（ゲート）を結んだ直線のこと。

#### ・レーシングライン

選手が競技で選択するもっとも合理的なライン（シュプール）のこと。

#### ・オープンゲート

旗門線とフォールラインはほぼ垂直に交わるように設置された旗門のこと。

- ・クローズドゲート

旗門線とフォールラインは平行になるように設置された旗門のこと。

- ・スルーゲート

前のオープンゲートとの組み合わせで大きく1ターンとなるように企図された旗門のこと。地形の変化に対応したり、コースの方向を変化させるために用いられる。

- ・ヘアピン

2連続したクローズドゲートのこと。(・・・ターン・タン・タン・ターン・・・)

- ・ストレート

3連続したクローズドゲートのこと。(・・・ターン・タン・タン・タン・ターン・・・)

#### 4-2 標高差 (コースの標高差)

4-2-1 回転『SL』	全国競技大会	男女共通	100～180m
	その他の大会	同	100～140m

4-2-2 大回転『GS』	全国競技大会	男女共通	150～350m
	その他の大会	同	150～300m
	1本のみの場合	同	150～400m

4-2-3 スーパーG『SG』	全国競技大会	男女共通	180～400m
	その他の大会	同	150～350m
	1本のみの場合	同	180～400m

#### 4-3 コースの長さ

- ・コースの長さの規程は設けないが、発表できることが望ましい。

#### 4-4 旗門

##### 4-4-1 回転『SL』

・旗門は2本のポールからなり、可倒式ポールを用いる。ただしアウトポールは固定式としてもよい。

- ・連続する旗門は交互に赤と青が並ばなければならない。

##### 4-4-2 大回転『GS』

- ・旗門は4本の可倒式ポールと2枚のフラッグを用いる。ターニングゲート、アウトゲートそれぞれにフラッグを取り付ける。ただしアウトゲートのポールは固定式としてよい。
- ・フラッグの素材は、強風に備え通気性のある生地とする。
- ・フラッグは選手の衝突に備え、容易に外れるものでなければならない。

#### 4-4-3 スーパーG『SG』

- ・GSの規則に準ずる。

#### 4-5 旗門の幅（旗門線の長さ）と旗門インターバル（男女共通）

##### 4-5-1 回転『SL』

- ・旗門の幅は、4m～6m以内とする。
- ・旗門インターバルは、75cm以上13m以内とする。
- ・ヘアピン・ストレートにおける旗門インターバルは、75cm以上1.0m以内とする。
- ・スルーゲートを含むその前後の旗門インターバルは、12m以上18m以内とする。
- ・ゴールの幅は10m以上とする。

##### 4-5-2 大回転『GS』

- ・旗門の幅は、4m以上8m以内とする。
- ・旗門インターバルは、10m以上とする。
- ・ゴールの幅は10m以上とする。

##### 4-5-3 スーパーG『SG』

- ・旗門の幅は、以下の通りとする。
  - ・オープンゲート 6m以上8m以内とする。
  - ・クローズゲート 8m以上12m以内とする。
  - ・スルーゲート 6m以上8m以内とする。
- ・旗門インターバルは、25m以上とする。
- ・ゴールの幅は15m以上とする。

#### 4-6 旗門の数

##### 4-6-1 回転『SL』

- ・特に制限を設けないが【全国大会の場合、男女共通 35～50旗門を目安とするのが

望ましい】

4-6-2 大回転『GS』

- ・標高差（単位はm）の11%～15%を目安とする（単位は旗門数）。

4-6-3 スーパーG『SG』

- ・標高差の7%～9%を目安とする。

## 5 アルペン種目のテクニカルデータ表

回転競技『SL』		
(男女共通)		
標高差	全国競技大会	100m～180m
	その他の大会	100m～140m
旗門数	最大・最小	特に制限を設けない
コンビネーションの数	バーティカルフラッシュ1～2箇所	
	ヘアコンビネーション2箇所以上	
	ディレードゲート1～2箇所	
旗のサイズ	旗なし	
旗の色	旗なし	
旗門の幅	4m～6m	
旗門の距離	75cm～13mディレードゲートは12m～18m	
コースの幅	2本とも周一の斜面にセットの場合は40m	
ゴールの幅	10m以上	

大回転競技『GS』		
(男女共通)		
標高差	全国競技大会	150m～350m 1本のみ場合180m～400m
	その他の大会	150m～300m
旗門数	最大	標高差の11%～15%
	最小	
旗のサイズ	横75cm 縦50cm	
旗の色	赤・青	
旗門の幅	4m～8m	
旗門の距離	10m以上	
コースの幅	通常30m	
ゴールの幅	10m以上	

スーパーG 競技『SG』		
(男女共通)		
標高差	全国競技大会	180m～400m 1本の場合180m～400m
	その他の大会	150m～300m
旗門数	最大	標高差の7%～9%
	最小	
旗のサイズ	横75cm 縦50cm	
旗の色	赤・青	
旗門の幅	オープンゲート6m～8m クローズドゲート8m～12m ディレードゲート15m以上	
旗門の距離	25m以上	
コースの幅	通常30m	
ゴールの幅	15m以上	

Fig1 設置の基本  
(ドリルの打ちかた)

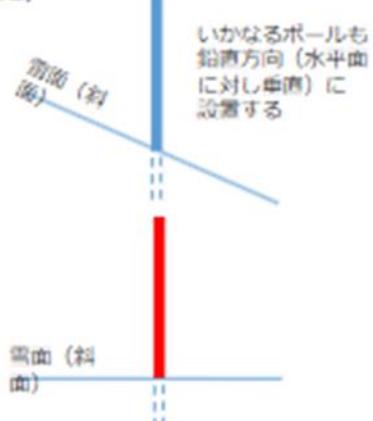


Fig2 旗門の寸法

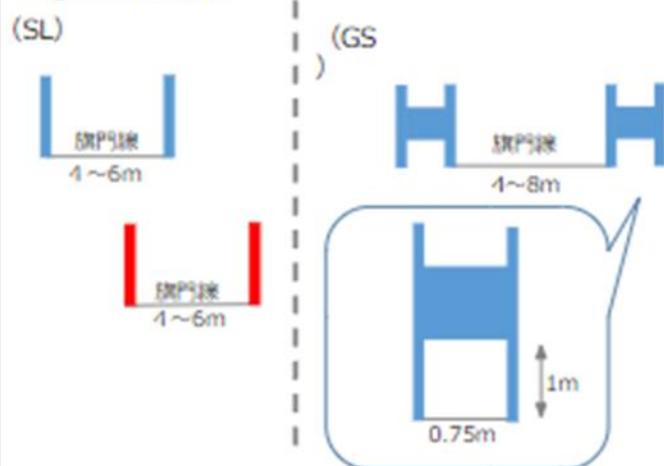


Fig3 名称の説明

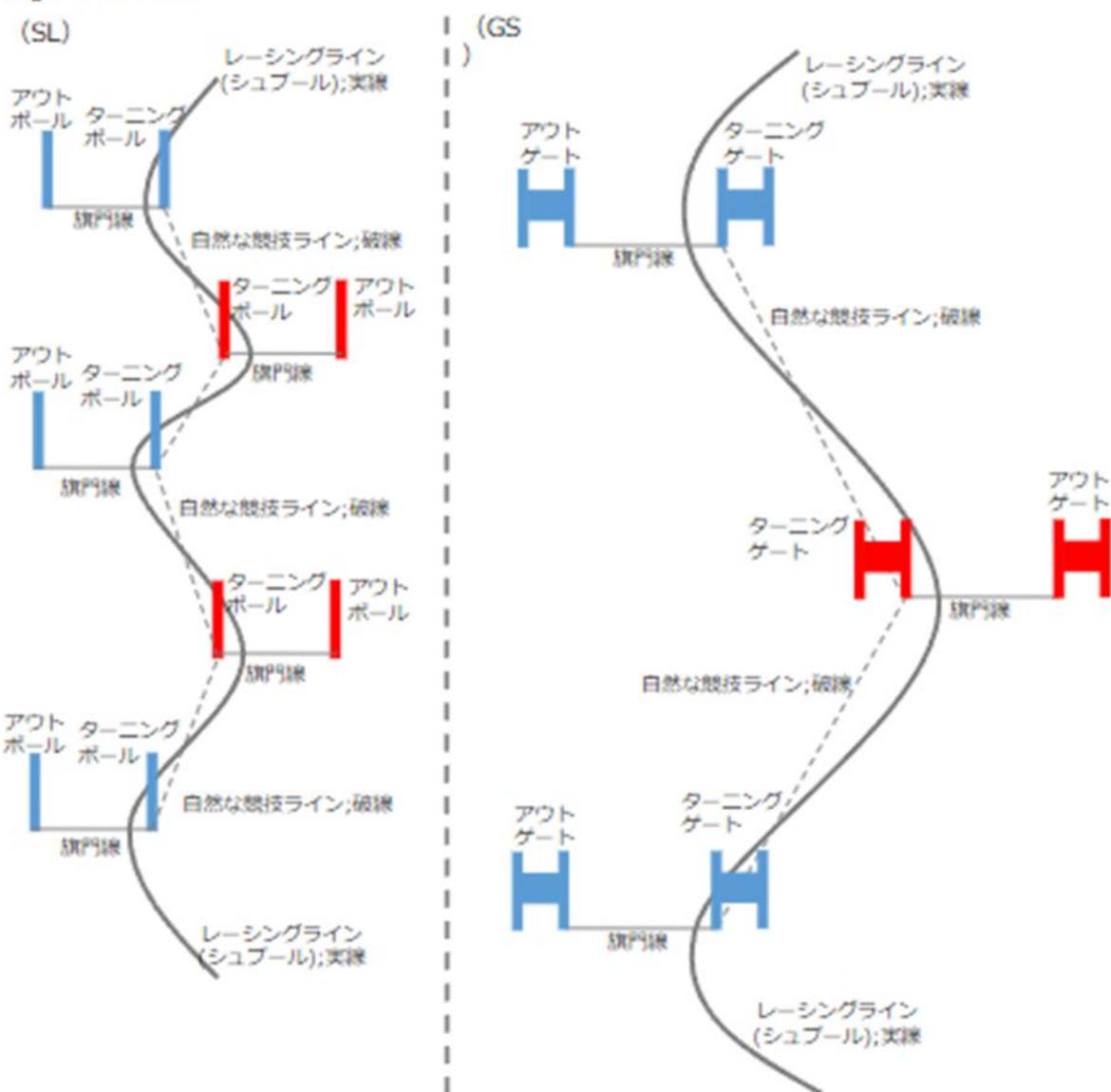


Fig4 シングルポール(ゲート)  
 ~アウトポール(ゲート)の省略~

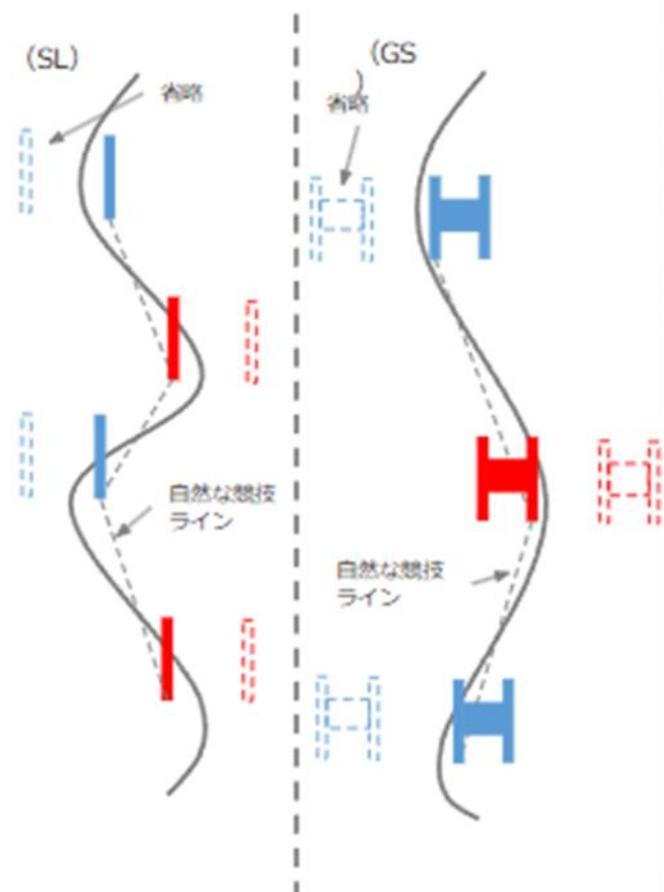
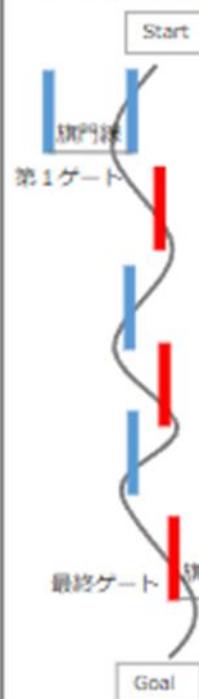


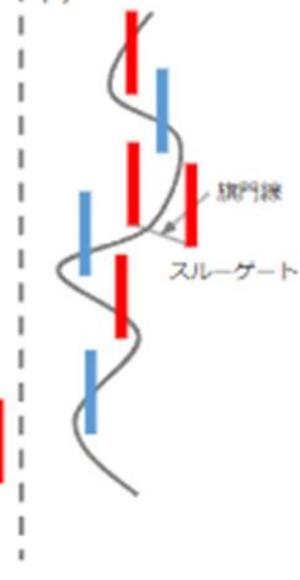
Fig5 シングルポール(ゲート)の例外

以下、a、bともにSLで説明するが、GSも同様

a. 第1ならびに最終ゲート

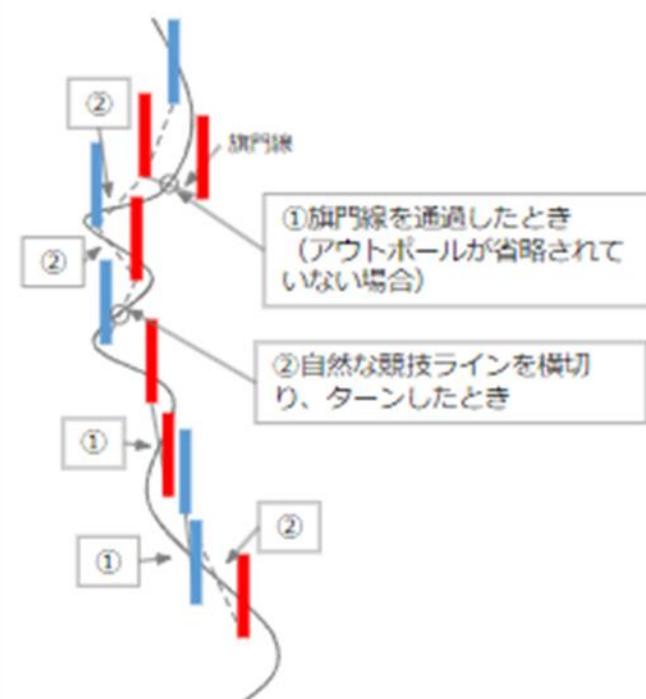


b. ディレイドゲート  
 (スルーゲート)



以下はSLのみ

Fig6 シングルポール(ゲート)通過の条件



c. ヘアピンならびにパーティカルコンビネーション (ストレート)

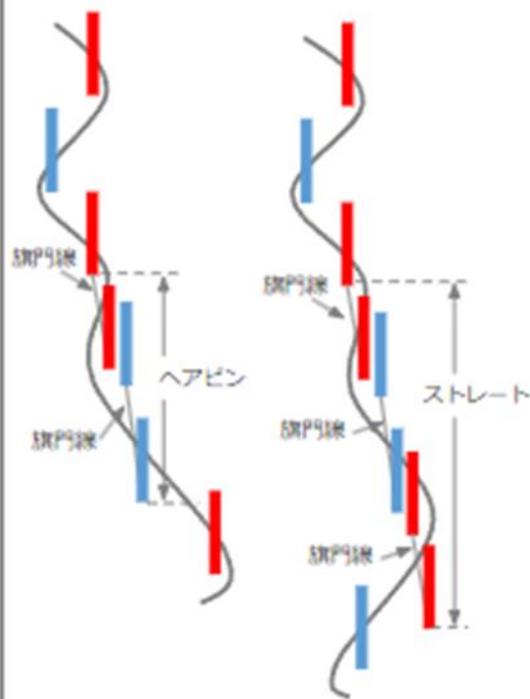
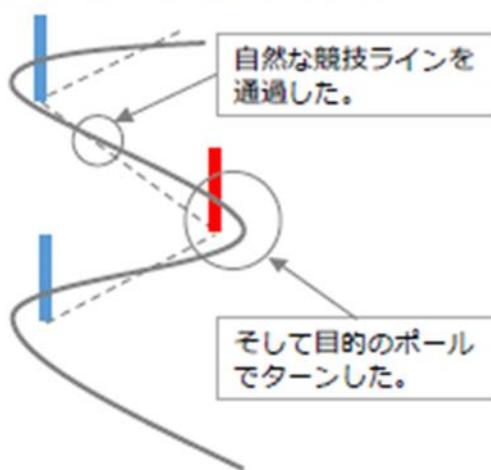


Fig4 旗門通過の条件

a. シングルポール（ゲート）の場合



b. アウト側がある場合

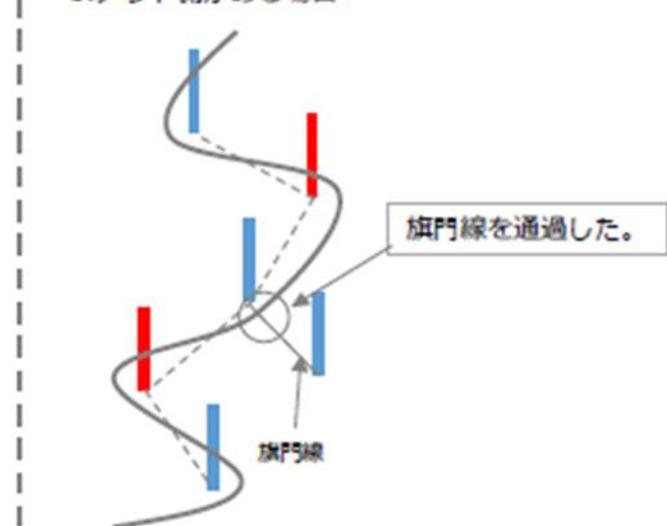
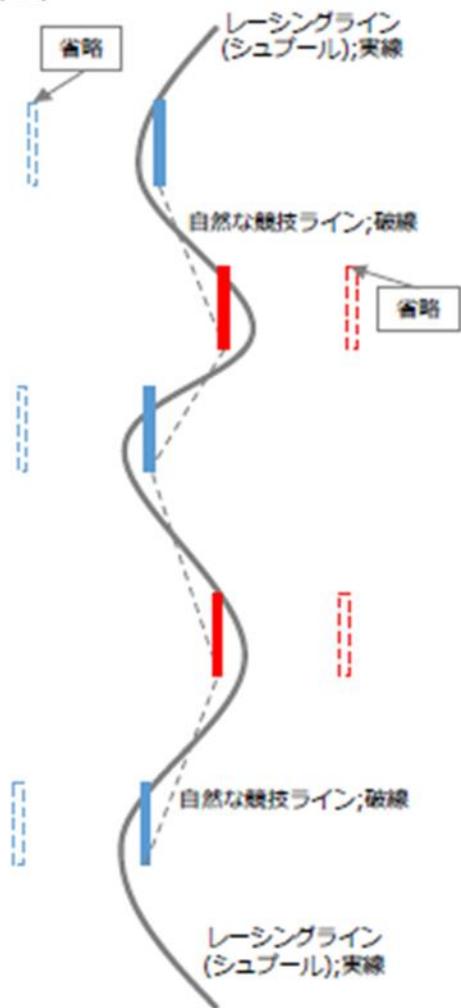


Fig5 シングルポール(ゲート)規則  
～アウトポール(ゲート)の省略～

(SL)



(GS)

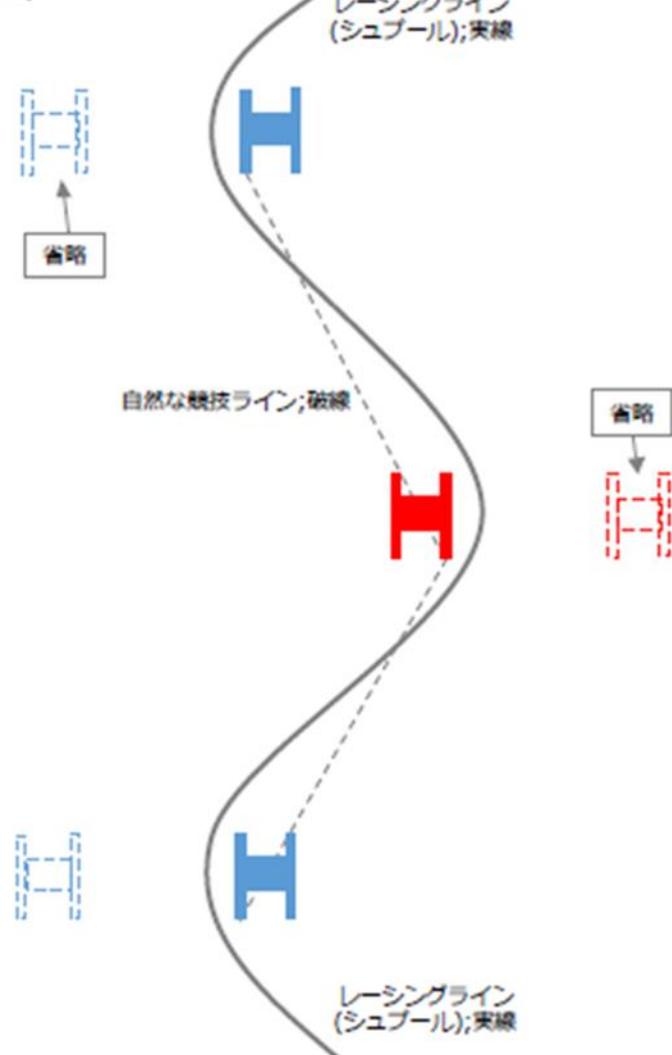


Fig7 ゲート間の寸法 (SL)

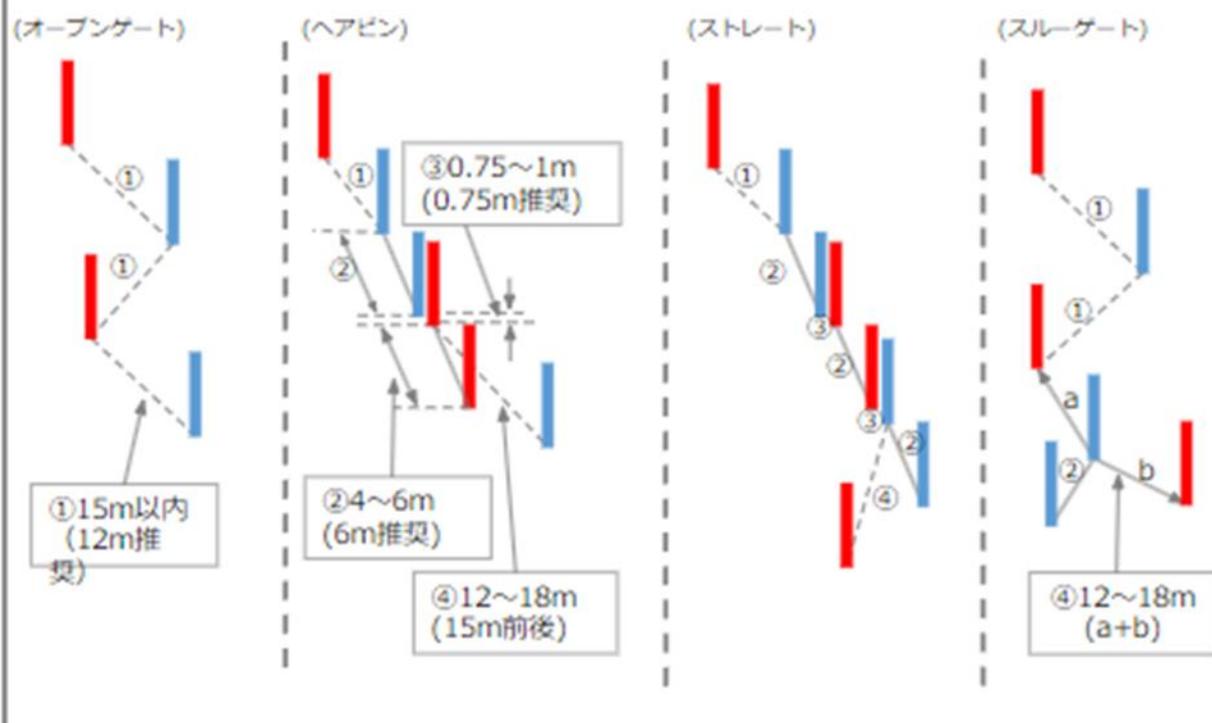


Fig8 ゲート間の寸法 (GS)

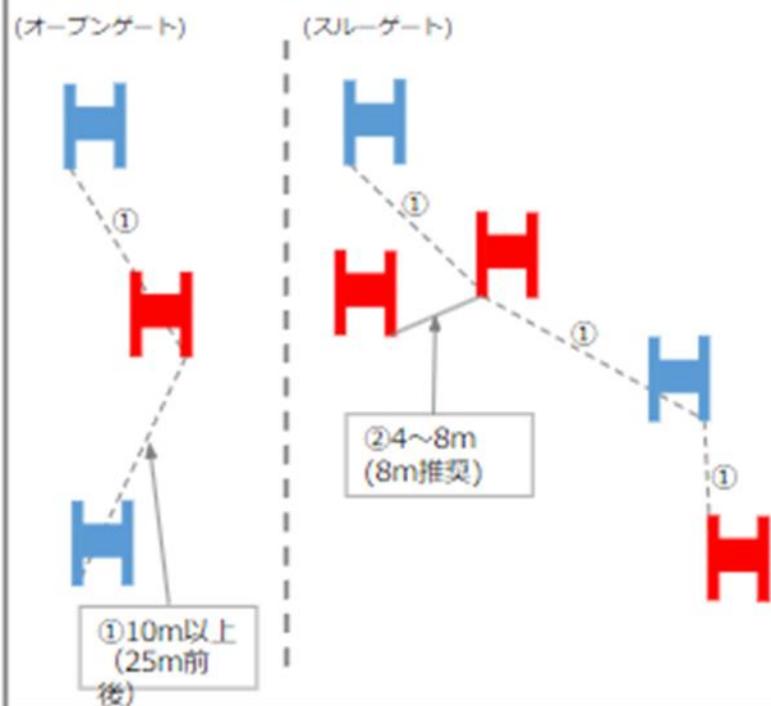
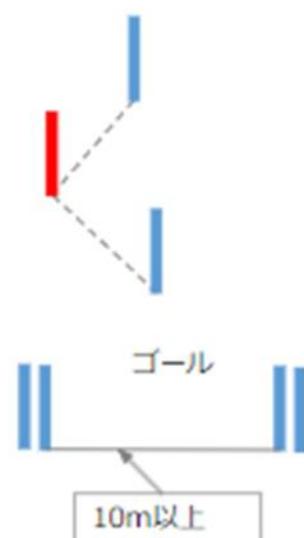


Fig9 ゴールの寸法



## 6 シングルポール規則（S L・G S）

（1）シングルポール競技は『競技規則 2011 年版』のルールが適用される

（2）シングルポール競技はアウトポールを持たない。但し第一旗門及び最終旗門、ディレードゲート（S Lにおいては、ヘアピン・ヴァーティカルゲート・ディレードゲート）は例外である。

（3）アウトサイドゲートが存在しない場合は、選手の両足とスキーの両先端が自然な競技ラインにおけるターニングポールサイドを通過する。

（4）自然な競技ラインとはターニングポールからターニングポールを結ぶラインをいい、競技者はこのラインを横切らなければならない。

（5）選手がラインを正確に通過しなかった場合、登り、戻り、通過しなかったターニングポールを回りラインを通過することができる。

**附則** 1. この規則は2025年11月10日より施行する。